



脱炭素活動の狙い

諏訪圏の行政・商工・企業・個人の総力で再エネ・省エネの構築へ

諏訪圏の行政・商工・企業・個人の皆さんへ

NPO諏訪圏ものづくり推進機構の環境研究会は、脱炭素活動の一環として7月から脱炭素通信のタイトルで脱炭素関連情報の発行を致します。

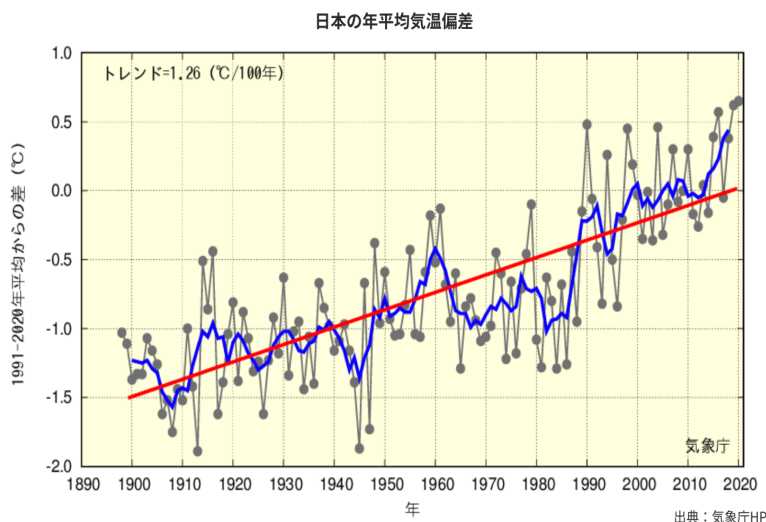
脱炭素は、近年世界中の国々で推進されている取り組みであり、もちろん日本も例外ではありません。日本は現在、年間で12億トンを超える温室効果ガスを排出しており、2050年までにこれをゼロにすることを目標としています。

また、これらの温室効果ガスの6割は、日常生活から排出されているという分析もあります。国や企業だけが取り組むべき問題ではなく、私たち一人一人の意識改革が必要なのです。

大がかりな取り組みでなくても、プラスチック製品を使わないといった小さな取り組みで十分です。

脱炭素の実現に向けて、日頃のライフスタイルの見直しから始めてみてはいかがでしょうか。

脱炭素活動を通じて温室効果ガスの排出を抑え、地球の平均気温の上昇を1.5℃にを目標に努力しましょう。結果的には、防災活動につながり、命の根源の水不足をなくし、創エネ・省エネ・蓄エネを通じエネルギーの有効活用をみんなの力で守り、地球の健康状態の維持に努めましょう。



地球健康の持続へ

創エネ・省エネ・蓄エネ

防災・水・エネルギー

政府の脱炭素宣言から急激な脱炭素シフト時代の到来

2020年10月に菅元首相（当時）が「2050年カーボンニュートラル向け達成を目指す」と宣言してから2年余り経過した持続可能な社会に向けた国際的潮流スタートしました。

SDGsの17のゴール

SDGs（エス・ディー・ジーズ）とは、「Sustainable Development Goals」の略語で、2015年9月の国連サミットにおいて加盟国197カ国の全会一致で採択された、持続可能でよりよい社会を目指すための国際目標です。全部で17の大きな目標が掲げられており、2030年までに達成することを目指しています。

パリ協定とは、2015年にパリで開催されたCOP21（第21回気候変動枠組条約締約国会議）で合意し、2016年に採択された協定です。「世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保ち、1.5℃に抑える努力をする」という目的のもと、加盟国への二酸化炭素排出量の削減目標策定や実施状況の提出を促します。

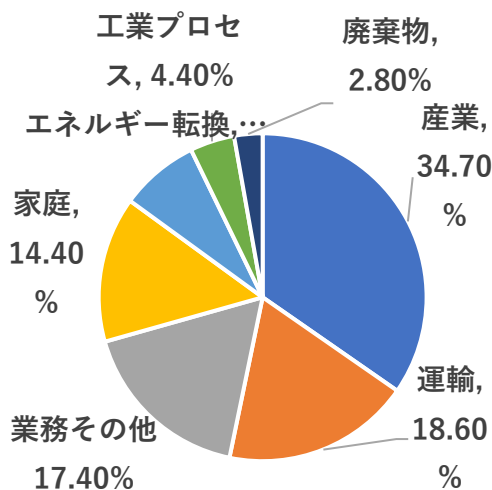
2015年「パリ協定」採択
温室効果ガスの削減
実質ゼロを目指します。

日本の脱炭素目標
2030年46%削減 2050年
カーボンニュートラル
世界の平均気温上昇「1.5℃目標目指す」
気候危機が到来、世界規模の行動
が求められます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

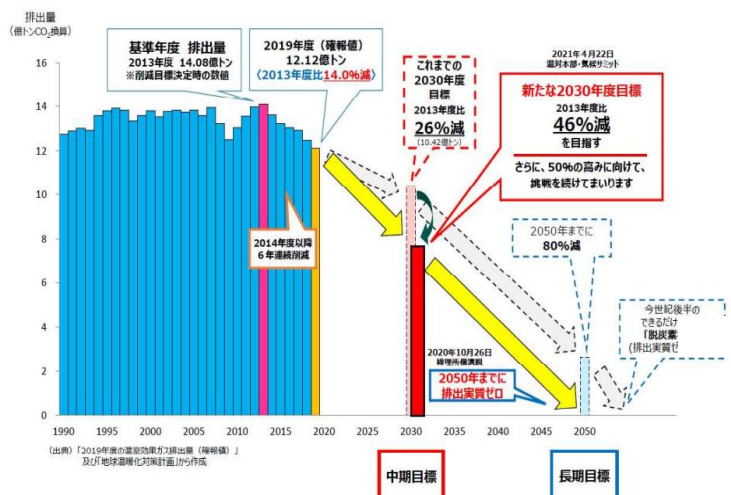


日本のCO2の内訳 合計11億800万 t



日本の温室効果ガスの中長期目標と長期目標

我が国の温室効果ガス削減の中長期目標と長期目標の推移



出典: 2050年カーボンニュートラルに向けた日本の気候変動対策 環境省